

施策評価シート

施策等名称	競技力の向上に向けた体制強化、指導者養成の推進	体系番号	0201020504
		主管課	スポーツ健康課

1 施策基本情報

現状と課題	競技力の向上は、各学校の運動部活動、スポーツクラブ及び桐茅野市体育協会の活動が主となっています。競技力向上には、小・中・高校(ジュニア期)からの選手の育成が重要であることから、子どもを対象にしたスポーツクラブ活動における指導者、学校部活動へコーチ・監督として指導に当たる外部指導者を含め、求められる指導者が確保・養成される必要がありますが、有効な方策がない状況となっている。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	国際大会、全国大会および県大会で活躍する市ゆかりの選手の増加を目指す

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値
				2027年度目標値
①	全国大会出場者数	全国大会出場者数(人)	67	72 72
②	全国・県大会開催数	全国・県大会開催数	0	2 2
③				

施策の柱1	名称	選手の育成強化、指導者養成による競技力向上		主管課	スポーツ健康課		
	詳細	ジュニア選手の発掘・育成を推進し、全国大会や国際舞台などの大会で活躍できる選手を増やす。また、全国や県大会レベルの大会を開催し高いレベルに触れることで、更なるレベルアップを図る。					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	スポーツ少年団員数	スポーツ少年団登録者数(人)	360	360 360	1 スポーツ団体等支援事業	実施
	2	ジュニアスポーツ教室参加者数	ジュニアスポーツ教室累計参加者数(人)	2,368	3,000 3,000	2 大会開催関連事業	実施
	3	スポーツ少年団指導員数	スポーツ少年団の指導員数(人)	56	56 56	3 教室開催関連事業	実施
						4	
						5	
						6	
	基本政策間連携						

施策の体系	名称			主管課		
	詳細					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1				1	
	2				2	
	3				3	
					4	
					5	
					6	
	基本政策間連携					

施策の柱3	名称			主管課		
	詳細					
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
	1				1	
	2				2	
	3				3	
					4	
					5	
					6	
	基本政策間連携					

施策等名称	競技力の向上に向けた体制強化、指導者養成の推進	体系番号	0201020504
		主管課	スポーツ健康課

## 2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
<b>施策</b>	全国大会出場者数	67	84	79	8	34	53
1		72	116.67	109.72	11.11	47.22	73.61
変動要因等	2018年度	個人63、団体16、世界大会等5。東海大諏訪高運動部の活躍により、全国大会出場者が増加した。					
	2019年度	新型コロナウイルス感染症の影響により2月、3月の大会の多くが中止となり、全国大会出場者は減少した。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の影響により大会の多くが中止となり、全国大会出場者は減少した。					
	2021年度	全国大会の開催数が増えてきたため、出場者は前年度に比べ増加した。					
	2022年度	全国大会の開催数が増えてきたため、出場者は前年度に比べ増加した。					
<b>施策</b>	全国・県大会開催数	0	0	0	0	0	2
2		2	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
変動要因等	2018年度	施設規模・設備・日程が開催希望団体と合致しなかった。					
	2019年度	施設規模・設備・日程が開催希望団体と合致しなかった。					
	2020年度	施設規模・設備・日程が開催希望団体と合致しなかった。					
	2021年度	施設規模・設備・日程が開催希望団体と合致しなかった。					
	2022年度	全国大会(軟式野球高松宮賜杯)、県大会(長野県総合体育大会バスケットボール)の開催があった。					
<b>柱1</b>	スポーツ少年団員数	360	350	311	308	398	332
1		360	97.22	86.39	85.56	110.56	92.22
変動要因等	2018年度	小学校3年～6年生の児童数が減少していることや、競技系スポーツが敬遠される傾向にあること等が推考される。					
	2019年度	小学校3年～6年生の児童数が減少していることや、競技系スポーツが敬遠される傾向にあること等が推考される。					
	2020年度	小学校3年～6年生の児童数が減少していることや、競技系スポーツが敬遠される傾向にあること等が推考される。					
	2021年度	児童数は減少しているが、スポーツ少年団に中学生の活動団体が加入したことが影響している。					
	2022年度	児童数の減少やコロナ禍による活動自粛による影響が推考される。					
<b>柱1</b>	ジュニアスポーツ教室参加者数	2,368	1,832	3,071	-	0	0
2		3,000	61.07	102.37	-	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	陸上競技が実施できなかったことや、野球やバレーボール部員の減少に伴い、参加者数が減少となった。					
	2019年度	ソフトテニス、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、軟式野球、陸上競技の6種目を実施することができた。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症防止対策のため中止になった。					
	2021年度	中学生を対象としたスポーツ教室でしたが、各協会からの指導者の手配が難しいことから休止とした。					
	2022年度	中学生を対象としたスポーツ教室でしたが、各協会からの指導者の手配が難しいことから休止とした。					
<b>柱1</b>	スポーツ少年団指導員数	56	49	47	46	47	36
3		56	87.50	83.93	82.14	83.93	64.29
変動要因等	2018年度	指導員をやっていた保護者が、子どもの少年団退団(小学校卒業)と同時に辞めたことによる。					
	2019年度	保護者が指導員を務めていることもあり、団員の減少に伴い指導員も減っている。					
	2020年度	保護者が指導員を務めていることもあり、団員の減少に伴い指導員も減っている。					
	2021年度	保護者が指導員を務めていることもあり、加盟団体毎状況が違う。					
	2022年度	保護者が指導員を務めているケースが多く、子どもの退団と同時に指導員を辞めていく団体が多い。					

施策等名称	競技力の向上に向けた体制強化、指導者養成の推進	体系番号	0201020504
		主管課	スポーツ健康課

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年(前年度比)		2019年(前年度比)		2020年(前年度比)		2021年(前年度比)		2022年(前年度比)		
投資額	事業費(円)	13,168,275		14,888,000	1.13	14,323,000	0.96	8,430,117	0.59	10,514,369	1.25	
	うち一財(円)	10,643,275		11,153,000	1.05	10,457,000	0.94	8,257,617	0.79	10,117,369	1.23	
	増減理由(一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)							コロナ禍で、全国大会や各種教室などが中止となり、活動ができなかったため。		スケートセンター営業開始日に小平奈緒交流イベントを開催したため。		
進捗評価		やや遅れている		おおむね順調		おおむね順調		やや遅れている		やや遅れている		
総合評価	主な取組内容や成果	全国大会等出場者やスポーツ少年団への支援実施。全国大会等への出場者数は、高校運動部の活躍もあり増加、スポ少活動は前年並みであった。		茅野市全国大会等出場激励金交付要綱を令和2年4月1日に施行し、新年度からは明確な基準を市民に示すことができたようになった。		全国大会等出場者やスポーツ少年団への支援実施。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、多くの全国大会が中止となり激励金は減少した。		全国大会等出場者やスポーツ少年団への支援実施。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、多くの全国大会や教室が中止となっている。		(R4・総括評価共通)全国大会等出場者やスポーツ少年団への支援実施。各種スポーツ団体において、コロナ禍での活動自粛から徐々に通常の活動となってきている。		
	課題	スポ少の指導者は指導者資格が必要なため、長期間継続してできる指導者が求められる。また、中学生の社会体育活動の見直しにより、ジュニアスポーツ教室の見直しが必要となった。		施設の老朽化もあり、全国大会等の開催、プロスポーツ大会の誘致は難しくなっている。指導者の減少は進んでいるが、東海大諏訪高運動部の活躍もあり全国大会出場者は増加傾向にある。		施設の老朽化もあり、全国大会等の開催、プロスポーツ大会の誘致は難しくなっている。指導者の減少は進んでいる。		施設の老朽化もあり、全国大会等の開催、プロスポーツ大会の誘致は難しくなっている。指導者の減少は進んでいる。		(R4・総括評価共通)施設の老朽化もあり、全国大会等の開催、プロスポーツ大会の誘致は難しくなっている。指導者の減少が進んでいる。		
改革・改善	改革・改善内容	ジュニアスポーツ教室の要綱を見直し、長野県中学生期のスポーツ活動指針に合致した教室とする。		全国大会やプロスポーツ大会だけでなく、スポーツイベント等を誘致することにより、市民のスポーツへの関心や競技者のモチベーションを高め、競技力の向上を図る。		全国大会やプロスポーツ大会だけでなく、スポーツイベント等を誘致することにより、市民のスポーツへの関心や競技者のモチベーションを高め、競技力の向上を図る。		スポーツイベント等を誘致することにより、市民のスポーツへの関心や競技者のモチベーションを高め、競技力の向上を図る。		生涯スポーツの推進等を通じて地域スポーツ文化の裾野を広げていくことで、競技力向上を目指していく。		
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1		1		1	
		重点事務事業	3		3		3		3		3	
理由	中学生期のスポーツ活動指針等の変革期にあり、従来の要綱では通じなくなったことから、使いやすい制度で成果が得られるような、内容の見直しを行う必要があるため。		指導者の高齢化が進んでいるため、協会内の世代交代を進め、組織強化を進めている。スポーツ協会・スポーツ少年団の活動支援を継続し、大会や教室の開催を通じて底辺からの拡大を行い、参加者や会員の増加を図る。		指導者の高齢化が進んでいるため、協会内の世代交代を進め、組織強化を進めている。スポーツ協会・スポーツ少年団の活動支援を継続し、大会や教室の開催を通じて底辺からの拡大を行い、参加者や会員の増加を図る。		指導者の高齢化が進んでいるため、協会内の世代交代を進め、組織強化を進めている。スポーツ協会・スポーツ少年団の活動支援を継続し、大会や教室の開催を通じて底辺からの拡大を行い、参加者や会員の増加を図る。		指導者の高齢化が進んでいるため、協会内の世代交代を進め、組織強化を進めている。スポーツ協会・スポーツ少年団の活動支援を継続し、大会や教室の開催を通じて底辺からの拡大を行い、参加者や会員の増加を図る。			